

第3学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ 算数のとびら（算数の学習の進め方）				
小単元	時	ページ	学習内容	
(課題設定)	1	4～8	<ul style="list-style-type: none"> ・100を単位にした(何百)+(何百)や(千何百)-(何百)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ・自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。 	

1 九九の表とかけ算				
目 標				指導時数・時期
○ 10や0のかけ算について、その意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、かけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
評 価				
(知) ・10のかけ算、0のかけ算の意味を理解し、その計算ができる。				
(思) ・かけ算のきまりを用いて、かけ算の仕組みや10や0のかけ算の仕方を考えている。				
(態) ・かけ算のきまりを見つけたり計算にいかしたりすることに進んで関わり、ふり返りを通してかけ算のきまりのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんぴ	—	130	◆2年「九九のきまり」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	10	◆九九と九九の表について、振り返る。	○九九の表を使った数あてゲームを通して、単元の課題をつかむ。
		11		○かかれた数のみつけ方を説明する活動を通して、かけ算のきまりを見いだしまとめる。
	2	12～13	◆問ウの10×3=3×10の交換法則は、九九表にある9×3=3×9を確認することで、定着を図る。	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1位数)×10や10×(1位数)の答えを求めることができる。
			◆問2の①や⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	
	3	14	◆問4では、まず、0のかけ算も他の整数と同じように表してよいことをおさえる。	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1位数)×0や0×(1位数)の答えを求めることができる。
			◆問5の①や⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	
	4	15	◆問2は、九九表を机上に置いて取り組む。	○かけ算のきまりを使って、□を使って表された、かける数やかけられる数を求めることができる。
学びのまとめ	5	16～17	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。
			◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	

2 わり算				
目 標				指導時数・時期
○ わり算について、その計算の意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の意味やよさを理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
評 価				
(知) ・等分除や包含除の意味を理解し、除法の適用場面を式に表して、九九を用いて答えを求めることができる。				
・答えが九九にないわり算の答えを求めることができる。				
(思) ・わり算の場面を既習のかけ算と関連づけて、わり算の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。				
(態) ・わり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の式にかくことやその計算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんぴ	—	130	・3年「九九の表とかけ算」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	18	◆12÷3を数図ブロックの操作と	○同じ数ずつ分ける計算について調

① 1人分の数をもとめる計算	19～20	式、ことばを対応させて計算の仕方を確認する。 ◆QRコードを読み取り、わり算の操作や「÷」の書き方を定着させる。 ◆問2でも、数図ブロックを操作させながら解決させる。	べていくという、単元の課題をつかむ。 ○数図ブロックを3等分する操作を通して、等分除の意味を理解し、除法の式に表すことができる。	★問1では、結果の見積もりを立ててから操作する。 ★問2では、数図ブロックの操作と式だけでなく、言葉でも解決方法を説明できるようにする。
	21	◆問3では、まず、数図ブロックを操作して答えを見つけさせる。そして、「全部の数」「1人分の数」「人数」を明らかにした上で、かけ算を使った答えの求め方に進む。	○わり算がかけ算の逆演算であることをもとに、等分除の答えをかけ算九九を使って求めることができる。	★問題場面から、1人分の×人数=全部の数という関係に気づき、答えの求め方を考える。
②分けられる人数をもとめる計算	22～23	◆問1では、まず、数図ブロックを操作して答えを見つけさせる。そして、「全部の数」「1人分の数」「人数」を明らかにした上で、かけ算を使った答えの求め方に進む。	○数図ブロックを3こずつに分ける操作を通して、包含除の意味を理解し、包含除の場合も除法の式に表して答えを求めることができる。	★問1では、結果の見積もりを立てて操作する。 ★問2では、数図ブロックの操作と式だけでなく、言葉でも解決方法を説明できるようにする。
	24	◆問1では、まず、数図ブロックを操作して場面の違いをとらえさせる。	○等分除と包含除を統合的にとらえ、どちらもわり算の式に表して九九を使って答えを求めればよいことを理解できる。	★p.132「もっと練習」の問4に進む。
③2つの分け方	25	◆問2では、かけ算のときを参考にして、まず、身のまわりから「全部の数」「1つ分の数」「いくつ分」を見つけさせる。次に、問1の問題カードを参考にして、「1つ分の数」を問うか「いくつ分」を問うかを決めさせる。	○問題づくりを通して、わり算の理解を深める。	★問2では、1つの場面から等分除と包含除の両方の問題をつくらせる。
	26	◆問1では、20問全てやるのではなく、10問選んで取り組ませる。(残りの問題は次時以降に扱ってもよい。) ◆QRコードを活用して、学習内容の定着を図る。	○学習内容を確実に身につける。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
④わり算を使った問題	27	◆問1では、いちごがのっている皿が何枚かと、いちごがのっていない皿が4枚あることをとらえさせて、取り組ませる。	○問題の中のわり算の意味に着目し、わり算を含む3要素2段階の問題を解く。	★似たような問題をつくって、解きあう。 ★p.132「もっと練習」の問5に進む。
⑤答えが九九にないわり算	28	◆問2の①や④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○何十や0をわる、答えが九九にないわり算の計算の仕方を、わり算がかけ算の逆演算であることをもとに考え説明することができる。	★0でわるとうなるかを気にしている児童がいれば、p.24の学習に立ち返り、 $15 \div 0 = \square$ とすると $15 = \square \times 0$ ($15 = 0 \times \square$) となり、 \square に何をあてはめても $\square \times 0$ は0で15にはならないことから、0でわることはできないことを知らせる。 ★p.133「もっと練習」の問7に進む。
	29	◆問1では、お金の模型を操作して考えさせる。 ◆問2の①や④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○ $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数}) = (2 \text{ 位数})$ の計算の仕方を、数の相対的な見方を活用して考え説明することができる。	★p.133「もっと練習」の問9に進む。
学びのまとめ	30～31	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の自己評価	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

思 見方・考え方を深めよう「あれ?たくさんいたのに……」

目 標		指導時数・時期			
○ 3要素2段階の文章題の解決を通して、数量の関係を線分図に表して未知数の求め方を考えることができるようにし、また、加法や減法の場面や計算の関係についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。		2時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬			
評 価					
(知)・3要素2段階の文章題をよみ、数量の関係を線分図に表すことができる。 (思)・数量の関係を線分図に表し、未知数の求め方を考えたり説明したりしている。 (態)・3要素2段階の文章題に進んで関わり、ふり返りを通して図にかいて考えることよき気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	32～33	◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって線分図をかかせる。わからない数は□とすることをおさえる。	○数量の関係を図に表して、減減の場面のはじめの数を求めることができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
	2	34～35	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。 ◆QRコードを活用し、線分図の書き方を振り返る。 ◆問2では、必要に応じて線分図のかき方を支援する。	○数量の関係を図に表して、増増の場面のはじめの数を求めることができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。

3 たし算とひき算の筆算

目 標		指導時数・時期			
○ (3位数)±(3位数)、簡単な(4位数)±(4位数)の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		10時間 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬			
評 価					
(知)・繰り上がりや繰り下がりの処理を通して、十進位取り記数法の理解を深め、(3位数)±(3位数)や簡単な(4位数)±(4位数)の筆算を、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算することができる。 (思)・既習の2位数の計算の仕方をもとに、(3、4位数)±(3、4位数)の筆算の仕方を考えている。 (態)・(3、4位数)±(3、4位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方のよさ、答えの見当づけや確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	130	◆QRコードを読み取り、p.130の2年「たし算とひき算のひっ算」の学習内容を復習する。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定) ①たし算の筆算	1	36 37	◆導入で、38+56の筆算の仕方を確認する。 ◆QRコードを活用し、筆算の仕方の定着を図る。 ◆問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可) ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○既習の2位数の筆算の仕方をもとに、3位数の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(3位数)+(3位数)で繰り上がり1回の筆算ができる。	※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。
	2	38	◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方をすることで、正しい筆算の仕方を定着させる。 ◆問5の①や問6の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○(3位数)+(3位数)で繰り上がり2回の筆算ができる。	★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいかを話し合う。 ★p.133「もっと練習」の問11に進む。
	3	39	◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方をすることで、正しい筆算の仕方を定着させる。 ◆問9の①③や問10の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○(3位数)+(3位数)で和が4桁になる筆算ができる。	★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいかを話し合う。 ★p.133「もっと練習」の問13に進む。

②ひき算の筆算	4	40～41	<p>◆問1の前に、32－18の筆算の仕方を確認する。</p> <p>◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を定着させる。</p> <p>◆問3の①や問4の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)</p> <p>※繰り下りの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。</p>	○(3位数)－(3位数)で繰り下がりが1回の筆算ができる。	<p>★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいのかを話し合う。</p> <p>★p.134「もっと練習」の問15に進む。</p> <p>※繰り下りの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。</p>
	5	42	<p>◆問6の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)</p> <p>◆たしかめの方法を確認しておく。</p>	○(3位数)－(3位数)で繰り下がりが2回の筆算ができる。	★p.134「もっと練習」の問17に進む。
	6	43	<p>◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を定着させる。</p> <p>◆問9の①や問10の①④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)</p>	○(3位数)－(3位数)で、繰り下がりが上位2桁に及ぶ筆算ができる。	<p>★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいのかを話しあう。</p> <p>★p.134「もっと練習」の問19に進む。</p>
●練習	7	44	◆QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すれば良いのかを説明させる。	○学習内容を確実に身につける。	★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいのかを説明させる。
③4けたの数の筆算	8	45	◆問2の①や③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時で扱うことも可)	○3位数の筆算の仕方をもとにして、(4位数)±(4位数)の筆算の仕方を考えることができる。	★問3で、いろいろな計算問題や文章問題をつくり、解き合う。
④計算のくふう	9	46	<p>◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら線分図をかき、わからない数は□とすることをおさえる。</p> <p>◆38＋62を先に計算すると、100になり、100という数に着目させる。</p>	○3口の加法を工夫して計算することができる。	★()を使うと1つにかいて、考え方の違いを表現できることに気づくようにする。
学びのまとめ	10	47～48	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「筆算の数あてゲーム」を友だちと出しあう。

* ふく習			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	49	○既習事項の確認と持続

4 時こくと時間			
目 標			指導時数・時期
○時刻と時間について、秒の意味を理解し、いろいろな時間や時刻の求め方を考えたり説明したりすることを通して、時刻と時間についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			4時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬
評 価			
(知)・時刻や時間の求め方や秒について理解し、必要な時刻や時間を計算によって求めたり、秒の単位を用いて測定したりすることができる。			
(思)・ちょうど何時かの時刻の区切りに着目し、時刻や時間の求め方を考えている。			
(態)・身のまわりの時刻や時間に進んで関わり、ふり返りを通して時刻や時間の求め方のよさや秒という単位の必要性に気づき、生活や学習にいかそうとしている。			
小単元	時	ページ	発展コース
じゅんび	—	130	◆2年「時こくと時間」
(課題設定)	1	50	◆導入で、時計のよみ方、午前や午後の意味を確認する。
		51	◆時計の模型やQRコードを活用して学習を進める。
	2	52	◆時計の模型やQRコードを活用して学習を進める。

	3	53	◆1分と思うところで手をあげるなど、時間に関する量感を養う活動を楽しみながら行う。	○1分よりも短い時間の単位「秒」について理解し、秒で表される時間について調べる。	★身のまわりから、秒の単位が使われている場面を見つける。
学びのまとめ	4	54～55	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

5 一万をこえる数					
目 標					指導時数・時期
○ 一万をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：6 月上旬～6 月下旬 3 学期制：6 月上旬～6 月下旬
評 価					
(知) ・一億までの数の表し方や仕組みを理解し、一億までの数を表したりよんだりすることができる。					
(思) ・位の仕組みや数の相対的な大きさに着目し、加減計算の仕方や 10 倍、100 倍、1000 倍した数や 10 でわった数の求め方を考えている。					
(態) ・一億までの数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や数の相対的な見方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	130	◆2年「1000をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	56	◆問1では、1000が10個で一万であることや、一万が2個で二万、一万が3個で三万、一万が4個で四万、…、一万が9個で九万ということを確認する。	○生活場面(マラソン大会)から、一万をこえる大きな数について調べていくという単元の課題をつかむ。	★p.135「もっと練習」に進む。
①万の位		57～58	◆QRコードを活用し、大きな数の仕組みの定着を図る。 ◆問2の①と④、問3の①と④で、大きな数のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○一万をこえる大きな数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。	
	2	59～60	◆問7では、答えの数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○千万の位までの数のよみ方、かき方について理解する。	★p.135「もっと練習」に進む。
	3	61	◆問1では、まず、10個分は10倍とも表現できることを確認する。 ◆位取り板を用いて、位の仕組みと数のまとまりについて視覚的に捉えやすくする。	○数の仕組みについて理解を深め、一億という数について知る。 ○一万を単位とした数の相対的な見方を理解する。	★7000万や270万について、1万を基準にした見方だけではなく、10万を何こ集めた数か、1000を何こ集めた数か、100を何こ集めた数か、10を何こ集めた数か、なども考える。 ★p.135「もっと練習」に進む。
	4	62	◆等号と不等号について復習する。	○一億までの数の大小比較ができる。	★いろいろな数字をつくり、大きさを比べる問題をつくって解きあう。 ★p.136「もっと練習」に進む。
	5	63	◆10目もりでどのくらいの大きさになっているのかに着目し、その1目もり分の大きさを数直線を使って読めるようにする。	○万の位までの数について、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりできる。	★p.136「もっと練習」に進む。
	6	64	◆1000円札が何枚あるのかをイメージさせ、1000が○こという捉え方ができるようにする。 ◆問4は、正答率が低い問題でもあるので、次時以降の練習問題などの際に扱うようにする。	○数の相対的な大きさの見方をもとに、万の位までの数の加減の計算ができる。	★問4のような問題をつくり、解きあう。 ★p.136「もっと練習」に進む。
②10倍した数、10で割った数	7	65	◆お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 ◆問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○数を10倍することについて理解する。	★数が大きい場合も同じようなきまりが成り立つのかを話し合う。
	8	66～67	◆お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 ◆問3の①と④や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○数を100倍(10の10倍)、1000倍(100の10倍)することについて理解する。	★算数ポケット「身のまわりの一万をこえる数」を紹介する。 ★p.136「もっと練習」に進む。

	9	68	<ul style="list-style-type: none"> ◆お金の模型や位取り板を使って考えさせる。 ◆前時の学習も想起させ、数を10倍したり10でわったりすると、位も1つ上がったり下がったりすることを確認する。 ◆問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○数を10でわることについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★数が大きい場合も同じようなきまりが成り立つのかを話し合う。 ★p.136「もっと練習」に進む。
●練習	10	69	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容を確実に身につける。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
学びのまとめ	11	70～71	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」を読み、新聞や社会の本などから一万をこえる数を見つける。

6 表とグラフ

目 標		指導時数・時期			
○身のまわりの事象について、表や棒グラフを用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともに、その方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。		9時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月上旬			
評 価					
(知)・身のまわりの事象について、表やグラフを用いて分類・整理する仕方を理解し、表やグラフをよんだりつくったりすることができる。					
(思)・目的に応じて、表の項目や棒グラフの目盛りのつけ方を適切に判断したり、表や棒グラフから事象の特徴をよみとったりしている。					
(態)・身のまわりの事象を分類・整理することに進んで関わり、ふり返りを通して表や棒グラフを目的にあわせて工夫することの必要性やそのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	131	◆2年「ひょうとグラフ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	72	◆導入では、2年生のときに表や棒グラフについて学習したことを確認する。	○好きな遊び調べの場面から、表や棒グラフを使って整理するという単元の課題をつかむ。	★好きな遊び以外についても、学級の興味・関心に応じて調べて、表に整理する。(p.78で扱う好きな給食調べなど)
①整理のしかた		73	◆QRコードを活用し、数を「正」の字で表し、簡単な表に整理できることを知る。	○数を「正」の字で表し、簡単な表に整理することができる。	
	2	74～75	◆棒グラフが棒グラフに変わっていることを確認する。	○棒グラフの意味を理解し、よむことができる。	★もっと練習 p.137に進む。
	3	76～77	◆QRコードを活用し、ぼうグラフのかき方を理解する。 ◆「サッカー、おにごっこ…」と表にかかれた情報を一つずつグラフに表していく。	○1目盛りが1の棒グラフをかくことができる。	★算数ポケットを読み、縦軸と横軸を入れ替えたグラフを知る。
②整理のしかたのくふう	4	78～79	◆問1では、まず、正の字から表をつくらせる。そして、表とグラフを比較して、1目盛りの大きさや「その他」の項目について気づかせる。 ◆数の多い順に「カレーライス、ハンバーグ…」と表にかかれた情報を一つずつグラフに表していく。	○数の多い順に並べたり、数の少ないものをまとめたりして、表や棒グラフに整理することができる。	◆QRコードを活用し、ぼうグラフをタブレットにかき表す。 ★算数ポケットを読み、順序が決まっているグラフについて知る。
	5	80～81	◆1目盛りの大きさを1分間にすると表から飛び出してしまうことから、1目盛りを10分間にすれば良いことを確認する。 ◆「日曜日、月曜日…」と表にかかれた情報を一つずつグラフに表していく。	○1目盛りが1でない棒グラフのかき方を考え、正しくかくことができる。	★QRコードを活用し、ぼうグラフをタブレットにかき表す。 ★問4では、統計グラフの作品を紹介するなどして棒グラフがどのように使われているかを話しあい、学級の興味・関心に応じた調べ学習を行って棒グラフに整理する。
	6	82～83	◆2つのグラフを見比べさせ、横軸は同じでも縦軸は1目もりの大きさが異なることに着目させる。	○目盛りのつけ方が違う2つのグラフを比較する活動を通して、目的に合った目盛りのつけ方について考えることができる。	★QRコードを活用し、ぼうグラフをタブレットにかき表す。
③表や棒グラフを組み合わせて	7	84～85	◆1組と2組を合わせて、「3年生全体」のかりた本の数になることに着目させてから、二次元表の作成に取り組ませる。	○一次元の表を組み合わせた二次元の表の見方について理解する。	★完成された表の一部の数字を隠しても部分と全体の数からその数字が答えられるようにする。
	8	86	◆アのグラフの1組と2組の物語の冊数の違いに気付かせる。 ◆イのグラフの物語と伝記の冊数の合計の違いから学年全体の冊数として比較しやすいことに気付かせる。	○複数の棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	★もし、3クラスあった場合にどのような積み上げ方の棒グラフになるのかを考える。

学びのまとめ	9	87	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童は QR を使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
--------	---	----	---------------------------------------------------------------------------	----------------	-------------------------------------------

7 たし算とひき算

目 標					指導時数・時期
○ (2位数)±(2位数)の計算について、繰り上がりや繰り下がりに着目して計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、暗算で計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月上旬～7月中旬
評 価					
(知)・(2位数)±(2位数)や100-(2位数)の暗算の仕方を理解し、その計算の答えを暗算で求めることができる。 (思)・暗算の仕方を考えたり、説明したりしている。 (態)・たし算とひき算の暗算に進んで関わり、ふり返りを通して暗算処理のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1 ・ 2	88	◆念頭だけで処理することが難しい場合は、上の位から順に計算した結果をノートにかかせていく。 ◆問2の①③や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省くことも可)	○繰り上がりの有無を意識して、(2位数)+(2位数)の暗算ができる。	★暗算の問題をつくらせて、取り組む。
	3 ・ 4	89	◆念頭だけで処理することが難しい場合は、上の位から順に計算した結果をノートにかかせていく。 ◆問6の①③や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省くことも可)	○繰り下がりの有無を意識して、(2位数)-(2位数)の暗算ができる。	★暗算の問題をつくらせて、取り組む。

活 どんな計算になるのかな

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな	1	90～91	○根拠にもとづいて、かけ算やわり算の演算決定をすることができる。

活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな	1	92～93	○「迷路づくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	94～95	○既習事項の確認と持続

8 長さ

目 標					指導時数・時期
○ 長さについて、巻尺の使い方や km の単位を理解し、測定する活動を通して長さの測定や計算、単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5時間 2学期制：7月中旬～7月下旬 3学期制：9月上旬
評 価					
(知)・巻尺の使い方や、長さの単位「km」について理解している。 (思)・長さの単位に着目して長さの計算の仕方を考えたり、長さの量感をもとに適切な単位を判断したりしている。 (態)・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な計器や普遍単位を使うことや、長さの量感を身につけておくことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	132	◆2年「長さ」「100cmをこえる長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	96 97	◆導入では、長さの単位に cm や m があつたことや、ものさしとその使い方について確認する。 ◆QR コードの解説動画から、活動のイメージをもたせる。	○長さを測る計器について調べ、長いものの長さの測り方や表し方を調べるといふ単元の課題をつかむ。 ○長さの見当づけを行い、巻尺を使って測る。	
	2	98	◆QR コードから、km の書き方を知らせる。	○長さの単位 km について知り、km を使って道のりなどの長さを表すことができる。	★p.137「もっと練習」に進む。
	3	99	◆道のりと距離の違いを確認する。	○長さの加減計算や問題づくりをする。	★問5では、つくった問題を解きあう。

	4	100	※ 問2 では、距離測定器やスマートフォンアプリを使ってよい。	○時間と関連づけて道のりの量感をつかみ、道のりを見当づけたり測定したりする。	※ 問2 では、距離測定器やスマートフォンアプリを使ってよい。
学びのまとめ	5	101	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

9 あまりのあるわり算					
目 標					指導時数・時期
○ 余りのあるわり算について、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：9月上旬～9月中旬 3学期制：9月中旬～9月下旬
評 価					
(知) ・余りの意味や余りのあるわり算の仕方を理解し、余りのあるわり算の答えを求めたり、確かめたりすることができる。					
(思) ・わり算の意味にもとづいて余りの大きさを判断したり、目的にあわせて余りの処理の仕方を考えたりしている。					
(態) ・余りのあるわり算に進んで関わり、ふり返りを通して余りのあるわり算の答えの求め方や目的にあわせて余りを処理することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	132	◆3年「わり算」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	102	◆導入では、 $12 \div 3$ の意味や答えの求め方を確認する。	○おかしを分ける場面から、余りのあるわり算について調べるとい	
①あまりのあるわり算のしかた		103～104	◆QRコードを読み取り、わり算の操作をイメージする。	○単元の課題をつかむ。 ○包含除で余りのあるわり算の意味を理解する。	
	2	105～106	◆QRコードを読み取り、わり算の操作をイメージする。	○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを理解する。	★「算数ポケット」を読み、あまりのあるわり算の発展的な学習内容に触れる。 ★p.137「もっと練習」に進む。
	3	107	◆ 問4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)	○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、計算や適用問題を解くことができる。	
	4	108	◆QRコードを読み取り、わり算の操作をイメージする。 ◆QRコードの間違った計算の仕方を提示し、どこが間違っているのかを確認させる。	○わり算の操作や計算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。	★p.138「もっと練習」に進む。 ★QRコードの間違った計算の仕方を提示し、どこが間違っているのかを説明させる。
●練習	5	109	◆QRコードの間違った計算の仕方を提示し、どこが間違っているのかを確認する。	○学習内容を確実に身につける。	★QRコードの間違った計算の仕方を提示し、どこが間違っているのかを説明させる。
②あまりを考えて	6	110	◆絵や図をもとにしたり、実際に活動したりして、題意をつかませる。 ◆QRコードを読み取り、ブロックで視覚的にも捉える。	○問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り上げて処理することができる。	★p.138「もっと練習」に進む。
	7	111	◆絵や図をもとにしたり、実際に活動したりして、題意をつかませる。 ◆QRコードを読み取り、線分図で視覚的にも捉える。	○問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り捨てて処理することができる。	★p.138「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	8	112～113	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

10 重さ					
目 標					指導時数・時期
○ ものの重さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して秤で重さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：9月中旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月中旬
評 価					
(知) ・秤の使い方や、重さの単位「g」、「kg」、「t」のよみ方・かき方・相互関係を理解している。また、重さの加減計算ができる。					
(思) ・重さの普遍単位の必要性に気づき、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりしている。					
・単位の間関係を統合的に考察している。					
(態) ・重さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して重さにあわせて適切な計器や普遍単位を使うことや重さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	132	◆2年「100をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	114	◆QRコードから、gのかき方を知	○直接比較による導入で、重さにつ	★長さやかさを想起させ、大きさの

①重さの表し方	115	<p>らせる。</p> <p>◆重さは、1gの何個分で表すのかと いうことを理解させる。</p>	<p>いて調べるという単元の課題をつ かむ。</p> <p>○任意単位(1円玉)による測定を通 して重さの単位gについて知り、g を使って重さを表すことができる。</p>	<p>違いを数で表すとよいという見通 しをもつ。</p> <p>★身の周りにある文房具なども任意 単位を使って比べる。</p>	
	2	116～117	<p>◆目盛りのよみ取りが困難な児童に は、秤の目盛りを数直線に表した ものを用意する。</p> <p>◆QRコードから、はかりの使い 方を視覚的に捉えさせる。</p>	○秤を使って重さの測定ができる。	★身の周りにあるものものはかりを使 って調べる。
	3	118～119	◆QRコードから、kgのかき方を知 らせる。	○重さの単位kgについて知り、kg を使って重さを表すことができる。	
	4	120	◆すなや水など素材が変わっても1 kgという重さが変わらないことを 理解させる。	○1kgの重さをつくったり身のまわ りから見つけたりして、1kgの量 感を身につけることができる。	★p.123「算数ポケット」の「かわ らない重さ」を読む。
	5	121	◆QRコードから、はかりの選び方 について視覚的に捉えさせる。	○1kgの量感をもとにして、身のま わりのものの重さを見当づけ、適 切に秤を選択して測定することが できる。	
	6	122～123	◆問2の後に同じ単位どうして計算 することを理解させる。	○簡単な場合の重さのたし算やひき 算の計算ができる。	★「算数ポケット」の「子犬の重さ は？」「重いのはだれ？」に取り 組む。
②たんいのかんけい	7	124～125	<p>◆問2の④では、計器の目盛りから 10倍や100倍の関係をとらえさせ たり、10倍の100倍は1000倍で あることなどを丁寧に確認したり する。</p> <p>◆QRコードから、tのかき方を知 らせる。</p>	<p>○重さの単位tについて知り、tを使 って重さを表すことができる。</p> <p>○長さ、かさ、重さの単位の関係を整 理し、m(ミリ)とk(キロ)の意味を 理解することができる。</p>	★p.138「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	8	126～127	<p>◆たしかめようの自己評価に基づ き、理解が十分でない内容をふり 返らせる。</p> <p>◆早く終わった児童はQRを使いな がら「やってみよう」に取り組む。</p>	○学習内容の理解を確認する。	<p>★「算数ポケット」の「体重はかわる かな？」に取り組ませる。</p> <p>★タブレット等を活用して発展問題 に取り組む。</p>

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	128	○既習事項の確認と持続

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
130～131	○じゅんび
132～138	○もっと練習
142～143	○算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

11 円と球

目 標		指導時数・時期			
○ 円や球について、コンパスを使って円を作図する活動や円や球を観察する活動を通して、円や球について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		8時間 2学期制(10月中旬～10月下旬) 3学期制(10月中旬～10月下旬)			
評 価					
(知)・円や球の形とそれらの中心、半径、直径について理解し、コンパスを使って円をかくことができる。 (思)・回転した点の軌跡として円の形をとらえ、円や球には中心となる点があることに気づき、作図の仕方を考えたり、半径や直径について調べたりしている。 (態)・円や球の形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して「まるい形」を数学的にとらえるための見方やコンパスの機能のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	114	◆1年「いろいろなかたち」 ◆2年「長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2～3	◆QRコードからこまをまわした様子を動的に捉えさせる。	○こまを回したときの点の軌跡の観察を通して、丸い形について調べていくという単元の課題をつかむ。	
	2	4～5	◆QRコードを読み取り、コンパスの正しい使い方を丁寧に確認する。 ※右ききと左ききのかき方のちがいに注意させる。	○円のかき方とコンパスの使い方、および円の中心、半径について理解する。	※右ききと左ききのかき方のちがいに注意させる。
	3	6	◆QRコードを読み取り、コンパスの正しい使い方を丁寧に確認する。	○半径を決めて円をかくことができる。 ○1つの円では、半径をどこにとってもすべて長さが等しいこと、半径の長さによって円の大きさが決まることを理解する。	★問4では、実際に校庭に半径が2mや5mの大きな円をかく。
	4	7	◆問6で円の形をした紙を用意し、折って中心をみつけさせる。	○直径および直径と半径の関係を理解する。	★問6では、円の形をした紙を用意し、折って中心をみつけさせる。 ★p.116「もっと練習」に進む。
	5	8	◆問1では、円をどのように組み合わせさせた形かを確認しながら、模様をかくにはコンパスの針を方眼のどこにさせばよいかを考えさせる。	○模様を観察し、模様のつくり方を考えることができる。 ○模様づくりを通して、コンパスの使い方と円のかき方に習熟する。	★問3で、いろいろな模様づくりに取り組ませる。
	6	9	◆問1では、○からのポストを先に調べてから、⊙や⊙のポストを調べるようにする。 ◆QRコードを読み取り、球を動的に捉える。	○長さを写し取る道具(ディバイダー)としてのコンパスの使い方を理解する。	★問2で、自分で地図上の地点を決めて、道のりを出しあう。
	7	10～11	◆QRコードを読み取り、身のまわりにある円や球の形をしたものを確認する。	○身のまわりのまるい形をしたものを分類し、球とその性質について理解する。	★問2では、球の直径の調べ方を考え見いだす。 ★QRコードを読み取り、身のまわりにある円や球の形をしたものを確認する。
学びのまとめ	8	12	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

12 何倍でしょう

目 標		指導時数・時期			
○ 数量の倍関係について、図を使って何倍になるかを整理して考えたり、オペレータ(変量)に着目して何倍になるかを考えたりすることを通して、乗除の適用場面や数量の関係について理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		4時間 2学期制: 10月下旬～11月上旬 3学期制: 10月下旬～11月上旬			
評 価					
(知)・数量の倍関係を図に表し、乗法や除法を適切に用いてわからない数を求めることができる。 ・a倍のb倍が(a×b)倍になることを理解している。 (思)・日常の事象における数量の倍関係に着目し、「何の何倍が何か」を正しく判断して図に表したり、図をもとにわからない数の求め方を考えたりしている。 (態)・数量の倍関係の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の倍関係を図に表すことや何倍になるかをまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
(課題設定)	1	13	◆問題文の数量と1つ1つ対応させ	○関係図に表して数量の倍関係をと	★関係図のかき方を身につける。

①何倍でしょう		14～15	ながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。わからない数は□とすることをおさえる。 ◆QRコードを読み取り、関係図のかき方を確認する。	らえる。 ○わり算を適用して、何倍かを求めることができる。	
②もとにする大きさをとめる	2	16～17	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。	○関係図に表して数量の倍関係をとらえる。 ○何倍かの関係にある2量のうちの、もとにする量を求めることができる。	★自分の力で関係図をかいて解決する。
③何倍になるかを考えて	3	18	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。 ◆4mの2倍の3倍は、4mの6倍であることをおさえる。	○ $a \times b \times c$ の場面で、順に考えて解く方法と、何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	★自分の力で関係図をかいて、2つの方法で解決する。
	4	19	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおって関係図をかかせる。	○ $a \times b \times c$ の場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解くことができる。	★自分の力で関係図をかいて、何倍になるかを考えて解決する。

13 計算のじゅんじょ					
目 標				指導時数・時期	
○ 乗法の式や計算について、()を使って1つの式に表したりその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、結合法則について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1時間 2学期制：11月上旬 3学期制：11月上旬	
評 価					
(知) ・乗法の結合法則について理解し、3要素2段階の問題を1つの式に表したり、()を使った式の計算をしたりすることができる。					
(思) ・オペレータに着目し、3要素2段階の問題を1つの式に表している。					
(態) ・乗法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して()を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	20～21	◆()を使ったときの計算の順序をていねいに確認する。	○数量の関係に着目し、乗法の結合法則が成り立つことを理解するとともに、これを用いて計算することができる。	★()を使うと1つにかいて、考え方の違いを表現できることに気づく。

14 1けたをかけるかけ算の筆算					
目 標				指導時数・時期	
○ 1けたをかけるかけ算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2、3位数)×(1位数)の計算の筆算や簡単な(2位数)×(1位数)の計算の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11時間 2学期制：11月上旬～11月下旬 3学期制：11月上旬～11月下旬	
評 価					
(知) ・(2、3位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、(2、3位数)×(1位数)の計算をすることができる。					
(思) ・10や100を単位として(何十・何百)×(1位数)の計算の仕方を考え、その仕方や計算のきまりをもとに(2、3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えている。					
(態) ・1位数をかけるかけ算に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算の筆算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	114	◆3年「九九の表とかけ算」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	22	◆導入では、 $10 \times (1 \text{ 位数})$ の計算の仕方を確認する。	○(何十・何百)×(1位数)の立式をして、計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	★ 20×3 や 200×3 の計算の仕方を説明する。
①何十・何百のかけ算		23	◆問1や問2では、お金の模型を使って考えさせる。 ◆問3の①③や問4の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○(何十・何百)×(1位数)を、10や100を単位にして九九の計算に帰着させて計算することができる。	
②(2けた)×(1けた)の筆算	2	24	◆計算棒を使って、計算の仕方をていねいにおさえていく。	○(十何)×(1位数)を、(十)×(1位数)と(何)×(1位数)にわけて計算することができる。	★問1や問2で計算棒を使って、計算の仕方を説明する。

	3	25	◆問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、筆算の仕方を確認する。	○繰り上がりのない(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	★問3や問4で、筆算の仕方を説明する。
	4	26	◆問6の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	★p.116「もっと練習」に進む。
	5	27	◆問8の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	★問9のような問題を数字を変えて、友だちと出しあう。 ★p.116「もっと練習」に進む。
	6	28	◆問12の①や問13の①④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○繰り上がりが2回の(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	★p.117「もっと練習」に進む。
●練習	7	29	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容を確実に身につける。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
③(3けた)×(1けた)の筆算	8	30	◆問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○(2位数)×(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	★問3のように(3位数)×(1位数)の筆算の計算の問題づくりをする。
	9	31	◆問5の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可) ◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を定着させる。	○既習の筆算の仕方をもとに、繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいのかを話し合う。 ★p.117「もっと練習」に進む。
④暗算	10	32	◆問1では、必要があればお金の10円玉などを提示する。	○積の見当づけを生かして、簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算することができる。	★p.117「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	11	33	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★やってみように取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

15 式と計算

目 標					指導時数・時期
○ 加減と乗法の混じった式や計算について、()を使って1つの式に表したりその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分配法則について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬
評 価					
(知) ・分配法則について理解し、()を使って1つの式に表したり、その計算をしたりすることができる。 (思) ・別々に求める考え方と1組にまとめる考え方を、()を使って1つの式に表したり、その計算の仕方を考えたりしている。 (態) ・加法と乗法の混じった式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して()を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	34～35	◆絵や図、具体物を使って、2つの考え方ができることをおさえる。	○ $a \times c \pm b \times c$ の場面で、別々に考えて解く方法とまとまりを考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	★2つの考え方ができることに気づき、それぞれの方法で解く。
	2	36～37	◆絵や図、具体物を使って、2つの考え方ができることをおさえる。 ◆()を使ったときの計算の順序をていねいに確認する。	○具体的な場面に照らし合わせて考え、分配法則のきまりについて理解したり、式に表したりすることができる。	★()を使うと1つにかいて、考え方の違いを表現できることに気づく。 ★p.117「もっと練習」に進む。

16 分数

目 標					指導時数・時期
○ 分数について、その意味や表し方を理解し、分数の大きさを数直線に表したり、分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：11月下旬～12月中旬 3学期制：11月下旬～12月中旬
評 価					
(知) ・分数を使った数量の表し方を理解し、分数の大小比較や、同分母分数の加減計算をすることができる。 (思) ・単位分数の何個分かに着目し、分数の大きさや同分母分数の加減計算の仕方を考えている。 (態) ・分数に進んで関わり、ふり返りを通して単位分数の何個分かに着目することのよさや分数で表すことの意味に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	114	◆2年「分数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	38	◆導入では、2年生のときに半分の大	○1mを単位にして測ったときの余	

①あまりの大きさの表し方	39	<p>きをさを $1/2$ と表したことを確認する。</p> <p>◆問1では、実際に 1m のテープを折る活動を行い、1m の $1/2$ や $1/3$ をつくらせる。</p> <p>◆QRコードを読み取り、分数に関する理解を深める。</p>	<p>りの長さの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。</p> <p>○単位分数を用いた量の表し方を理解する。</p>	<p>★問2では、実際に $1/4$ や $1/5$ をつくり、分数に関する理解を深める。</p> <p>★p.118「もっと練習」に進む。</p>	
	2	40～41	<p>◆問1は、第1時で使った 1m の $1/3$ のテープを使って展開する。</p> <p>◆問6の③は、1m を7等分したテープを提示する。</p>	<p>○単位分数のいくつ分で分数の大きさを表すことができる。</p>	<p>★算数ポケット「分数の意味と表し方」に取り組む。</p> <p>★p.118「もっと練習」に進む。</p>
	3	42	<p>◆問8は、問7で扱った液量図を使って、図と関連付けて捉えさせる。</p>	<p>○液量についても分数で表せることを知り、分数の意味への理解を深める。</p>	<p>★問8や問9では、「$1/10$の○こ分だから～」という表現を使って説明できるようにする。</p> <p>★p.118「もっと練習」に進む。</p>
②分数の大きさ	4	43	<p>◆問1では、第1時と同様の 1m のテープを用意しておき、まず、それと数直線を対応させて1の大きさを具体的にとらえさせる。</p> <p>◆QRコードを読み取り、分数の大きさに関する理解を深める。</p>	<p>○分数を抽象数としてとらえ、単位分数および1との関係について考える。</p>	<p>★問2では、$3/2$ や $4/3$ など他の1をこえる分数も表せることを確認する。</p> <p>★p.119「もっと練習」に進む。</p>
	5	44	<p>◆問1では、前時の学習をふりかえり、数直線を使って $1/6$ は1を6等分した大きさであることをおさえる。</p>	<p>○1より小さい目盛りのある数直線があることを知り、その数直線上の点を分数で表すことができる。</p>	<p>★p.119「もっと練習」に進む。</p>
	6	45	<p>◆不等号について振り返る。</p>	<p>○分数の大小や相等の関係を理解することができる。</p>	<p>★算数ポケット「分母のちがう分数の大きさくらべ」に取り組む。</p> <p>★p.119「もっと練習」に進む。</p>
③分数のたし算・ひき算	7	46	<p>◆問3の①や⑦で計算の仕方を確認する。(その他の小間は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○同分母分数のたし算の仕方を考え、計算することができる。</p>	<p>★「$1/10$の○こ分だから～」という表現を使って、計算の仕方を説明する。</p>
	8	47	<p>◆問5では、$4/4$ を表した液量図を提示し、図と関連付けながら理解する。</p> <p>◆問6の①や⑦で計算の仕方を確認する。(その他の小間は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○同分母分数のひき算の仕方を考え、計算することができる。</p>	<p>★「$1/10$の○こ分だから～」という表現を使って、計算の仕方を説明する。</p> <p>★p.119「もっと練習」に進む。</p>
●練習	9	48		<p>○学習内容を確実に身につける。</p>	
学びのまとめ	10	49	<p>◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。</p> <p>◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。</p>	<p>○学習内容の理解を確認する。</p>	<p>★「やってみよう」に取り組む。</p> <p>★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。</p>

活問の数

小単元	時	ページ	学習内容
思問の数	1	50	○1列に並んだものの数と順序との関係を、図を使って考えることができる。
	2	51	○1列に並んだものの数とその間隔との関係を、図を使って考えることができる。

わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	学習内容
わくわくプログラミング	1	52～53	<p>○レーシングカーを動かすプログラムをつくる活動を通して、基本的なプログラミングの考え方を理解する。</p> <p>○QRコードを読み取り、プログラミングに関するイメージをもつ。</p>

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	54～55	・既習事項の確認と持続

17 三角形

目 標	指導時数・時期
○二等辺三角形や正三角形について、辺に着目して二等辺三角形や三角形の意味を理解し、作図の仕方や角の大きさを考えたり調べたりすることを通して、三角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。	<p>8時間</p> <p>2学期制：1月中旬～1月下旬</p> <p>3学期制：1月中旬～1月下旬</p>
評 価	

(知) ・二等辺三角形や正三角形の意味や性質を理解し、コンパスを使って二等辺三角形、正三角形をかくことができる。 (思) ・辺の長さに着目して、二等辺三角形や正三角形を弁別したり、作図の仕方を考えたりしている。 (態) ・三角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して辺の長さや角の大きさに着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	115	◆2年「三角形と四角形」 ◆3年「円と球」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	56	◆導入では、三角形の定義や、辺の数、頂点の数を確認する。	○色棒を使っているいろいろな三角形を作る活動を通して、単元の課題をつかむ。 ○辺の長さに着目して、二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。	★問2では、等しい辺がいくつあるのかをコンパスを用いて、確かめる。
①二等辺三角形と正三角形		57～58			
	2	59	◆問1では、まず、ものさしだけでの作図に取り組みせ、それだと何が難しいかを明らかにさせる。 ◆QRコードを読み取り、コンパスを使った二等辺三角形の正しいかき方を丁寧に確認する。	○二等辺三角形と正三角形を作図し、二等辺三角形や正三角形について理解を深める。	★作図の仕方を説明する。
	3	60	◆円の半径はどこを測っても等しいことを振り返る。	○円の半径の性質を利用すると、二等辺三角形や正三角形をかくことができることを理解する。	★問2では、二等辺三角形や正三角形になる理由を説明する。 ★p.120「もっと練習」に進む。
	4	61	◆問1では、まず、折り紙を折らせて二等辺三角形や正三角形をつくらせ、そうなっていることを確かめる。なぜそうなるのかは、大きさや形が違う紙でもつくれるかを話しあせながら考えさせる。実際に別の紙を折って確かめてもよい。 ◆QRコードを読み取り、身のまわりにある二等辺三角形や正三角形の形をしたものを知る。	○色紙を使って二等辺三角形や正三角形をつくる方法を考える。 ○身のまわりから二等辺三角形や正三角形の形をしたものを見つける。	★二等辺三角形や正三角形になる理由を説明する。 ★タブレットなどを用いて、身のまわりにある二等辺三角形や正三角形の形をしたものを探す。
②角	5	62～63	◆問1では、まず、2年生のときに本やノートのかどの形を調べて、直角を学習したことを確認する。	○角について知り、二等辺三角形や正三角形の角の大きさについての性質を理解する。	★算数ポケット「直角のある二等辺三角形」に取り組む。
	6	64	◆問3では、実際に黒板で使う大きな三角定規と児童用の三角定規を比べる。	○三角定規の角を調べる活動を通して、角の大きさが辺の長さには関係ないことを理解する。	
	7	65	◆QRコードを読み取り、三角形のしきつめに関する理解を深める。	○正三角形や二等辺三角形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。	★問1では、並べるまえに、隙間なく並べられるか（敷き詰められるか）の見通しを立てる。 ★二等辺三角形の敷き詰めも行う。
学びのまとめ	8	66～67	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。 ★「やってみよう」に取り組む。

18 小 数

目 標						指導時数・時期
○ 小数について、その意味や表し方を理解し、小数の大きさを数直線に表したり、小数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、小数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。						11時間 2学期制：1月下旬～2月中旬 3学期制：1月下旬～2月中旬
評 価						
(知) ・小数を使った数量の表し方や小数の仕組みを理解し、小数の大小比較や加減計算をすることができる。 (思) ・単位小数の何個分かに着目し、小数の大きさや同分母分数の加減計算の仕方を考えている。 (態) ・小数に進んで関わり、ふり返りを通して単位小数の何個分に着目することのよさや小数も整数と同じ仕組みで表されることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。						
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	
じゅんび	—	115	◆3年「分数」	○既習事項の理解を確かめる。		
(課題設定)	1	68	◆導入では、1Lを10等分した3個分を3/10と表せることを確認する。 ◆QRコードを読み取り、小数に関する理解を深める。	○1Lを単位にして測ったときの余りのかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○小数について知り、小数を用いた量の表し方を理解する。	★3/10Lは1/10Lが3こ分で、0.3Lは0.1Lが3こ分表した数であることを抑え、分数と小数を関連付けながら単位の考えを理解する。 ★算数ポケット「世界の小数の表し方」について取り組む。 ★p.120「もっと練習」に進む。	
①あまりの大きさの表し方		69～70				

	2	71	◆ 問5 では、1cm=10mm、1L=10dLであることを確認する。 ◆QRコードを読み取り、身のまわりに小数が多く使われていることを知る。	○長さについても小数で表せることを知り、小数の意味や表し方についての理解を深める。 ○身のまわりから小数を見つける。	★タブレット等を活用し、身のまわりにある小数を探すようにする。 ★p.120「もっと練習」に進む。
②小数の大きさ	3	72	◆ 問1 では、数直線の0.1の部分を丁寧におさえて図と関連付けて理解する。	○小数の仕組みや構成について理解する。	★p.120「もっと練習」に進む。
	4	73	◆ 問5 では、不等号について振り返る。	○小数の大小関係について理解する。	★p.120「もっと練習」に進む。
	5	74	◆ 問1 では、数直線で確認した後、再度数直線上にある数字を隠して理解を深める。	○小数と分数で大小を比較することができる。	★ 問1 では、「0.1が○こ分だから～」や「1/10が○こ分だから～」という表現を使って説明できるようにする。 ★ 問2 では、友達と問題を出し合い、小数と分数(○/10)の大小比較を確実におさえる。 ★p.121「もっと練習」に進む。
③小数のたし算・ひき算	6	75	◆ 問1 では、「0.1が何個分だから～」という表現を丁寧に扱う。 ◆ 問3 の①や 問4 の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○小数のたし算の計算の仕方を考え、その計算ができる。	★ 問1 や 問2 では、「0.1が○こ分だから～」という表現を使って説明できるようにする。 ★p.121「もっと練習」に進む。
	7	76	◆ 問7 の①や 問8 の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○小数のひき算の計算の仕方を考え、その計算ができる。	★ 問5 や 問6 では、「0.1が○こ分だから～」という表現を使って説明できるようにする。 ★p.121「もっと練習」に進む。
	8	77	◆QRコードを読み取り、筆算のしかたを定着させる。 ◆ 問3 の①や 問4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○小数の加減計算の仕方をもとに、その筆算も整数の筆算と同じようにできることを理解し、計算できる。	★p.121「もっと練習」に進む。
	9	78	◆ 問6 の①③⑤⑦で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の確認問題として扱うことも可)	○(整数)±(小数)や(小数)±(小数)で空位のある筆算の仕方を理解し、計算できる。	★ 問7 では、問題を出し合う。
●練習	10	79	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容を確実に身につける。	★「やってみよう」に取り組む。
学びのまとめ		80～81	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	82～83	○既習事項の確認と持続

19 2けたをかけるかけ算の筆算

目 標				指導時数・時期	
○ 2けたをかけるかけ算の筆算について、1けたをかける場合の筆算をもとにその仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2、3位数)×(2位数)の計算の筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6時間 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬	
評 価					
(知) ・(2、3位数)×(2位数)の筆算の仕方を理解し、(2、3位数)×(2位数)の計算をすることができる。 (思) ・1位数をかける筆算の仕方や計算のきまりをもとに、(2、3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考えている。 (態) ・2位数をかけるかけ算に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算の筆算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	115	◆3年「1けたをかけるかけ算の筆算」 ◆3年「たし算とひき算の筆算」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	84	◆導入では、23×3で1桁をかける	○既習の(2位数)×(1位数)の計算を	

①何十をかけるかけ算		85	<p>かけ算の筆算の仕方を確認する。</p> <p>◆QRコードを読み取り、2けたのかけ算の筆算に関する理解を深める。</p> <p>◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>もとに、2位数をかける計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。</p> <p>○乗数の何十を1位数と10の積とみて、(2位数)×(何十)の計算の仕方を考えることができる。</p>	<p>★問3や問4では、問1の(23×3)×10のように立式して、説明できるようにする。</p> <p>★p.122「もっと練習」に進む。</p>
②(2けた)×(2けた)の筆算	2	86	<p>◆QRコードを読み取り、2けたのかけ算の筆算の仕方に関する理解を深める。</p> <p>◆問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○(2位数)×(2位数)で部分積が2桁の筆算を計算することができる。</p>	<p>★「かける数を○十と○に分けて～」のように筆算のしかたを自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>★もっと練習 p.122に進む。</p>
	3	87	<p>◆問5の①や問6の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○既習の筆算の仕方をもとにして、(2位数)×(2位数)で部分積が3桁の筆算を計算することができる。</p>	<p>★p.123「もっと練習」に進む。</p>
●練習	4	88		<p>○学習内容を確実に身につける。</p>	
③(3けた)×(2けた)の筆算	5	89		<p>○(2位数)×(2位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。</p>	<p>★(4桁)×(2桁)の筆算の問題をつくり、解きあう。</p>
学びのまとめ	6	90~91	<p>◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。</p> <p>◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。</p>	<p>○学習内容の理解を確認する。</p>	<p>★「やってみよう」に取り組む。</p> <p>★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。</p>

20 □を使った式

目 標				指導時数・時期	
○ 数量を□として式に表すことについて、わからない数を□とすれば数量やその関係を式に表せることを理解し、□にあてはまる数の求め方を考えたり説明したりすることを通して、数量の関係や計算の相互関係について理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬	
評 価					
<p>(知) ・わからない数を□として式に表したり、□にあてはまる数を求めたりすることができる。</p> <p>(思) ・問題場面の数量やその関係に着目し、□を使って図や式に表している。</p> <p>(態) ・□を使った式に進んで関わり、ふり返りを通して□を使うことよさや文と図と式を関連づけることの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。</p>					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	—	115	◆3年「図を使って考えよう」	○既習事項の理解を確かめる。	
	1	92 93	◆QRコードを読み取り、□を使った式に関する理解を深める。	○わからない数があるときの式について考えるという、単元の課題をつかむ。 ○わからない数を□として、式に表すことができる。	
	2	94	◆線分図は、問題文と対応させていねいに指導する。	○加法・減法の場面で□を使って立式し、□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	★問題場面を、□を使った式や線分図に表して考える。 ★似たような問題をつくり、□を使って式に表して、□にあてはまる数を見つける。
	3	95	◆線分図は、問題文と対応させていねいに指導する。	○乗法・除法の場面で□を使って立式し、□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	★問題場面を、□を使った式や線分図に表して考える。 ★似たような問題をつくり、□を使って式に表して、□にあてはまる数を見つける。
	4	96~97	◆問題文と□を使った式と図が対応するように、丁寧に指導する。	○算数の問題をつくり、その問題文に合う図や式を考えることができる。	★問2で□とする数量を変えて問題文をつくり、図や式に表す。 ★p.123「もっと練習」に進む。

● そろばん

目 標		指導時数・時期
○ そろばんについて、そろばんを用いた数の表し方を理解し、簡単な加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		1時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価		

(知)・そろばんによる数の表し方や加法及び減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができる。					
(思)・そろばんの構造をとらえ、簡単な加法及び減法の計算の仕方や、数の相対的な見方を用いた計算の仕方を考えることができる。					
(態)・そろばんを用いた加法および減法の計算に進んで取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	98～101	<ul style="list-style-type: none"> ◆QRコードを読み取り、そろばんの使い方に関する理解を深める。 ◆プロジェクター等を用いて、全体に操作が見える環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○そろばんについて知り、そろばんにおかれた数のよみ方や数の入れ方とはらい方を理解する。 ○繰り上がりや繰り下がりのない加減で、5だまの合成・分解の起こらない場合の計算をする。 ○5だまの合成・分解の起こる場合の加減の計算をする。 	★算数ポケット「大きな数や小数の計算」に取り組む。

活 買えますか？ 買えませんか？

小単元	時	ページ	学習内容
●買えますか？買えませんか？	1	102～103	○品物1つを100円玉何枚で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。

わくわく SDGs

小単元	時	ページ	学習内容
●わくわく SDGs	1	104～107	<ul style="list-style-type: none"> ○食品ロスについて話し合い、与えられたデータから1人あたりの食品ロスを求めることができる。 ○調べた結果から、これから自分たちにもできることを話し合う。

* もうすぐ4年生 (3年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	108～109	○3年生の学習内容の確認と持続
	2	110～111	
	3	112	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
114～115	○じゅんぴ
116～123	○もっと練習
126～127	○学びをつなげよう

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。